

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	◆D-4-1-1
事業名	地域交流拠点整備事業
事業費	総額 47,392 千円（うち国費 37,913 千円） （内訳：測量費 1,843 千円、設計費 2,289 千円、工事費 43,260 千円）
事業期間	平成 24 年度～平成 25 年度
事業目的	災害公営住宅入居者の健康増進と憩いの場として、また、被災者と近隣住民との出逢いの機会によるコミュニティの形成を図るため、地域交流拠点として「出逢いの小路（緑道）」を整備する。
事業地区	香取市佐原地区
事業結果	両総用水第 1 導水路小段（国道 356 号寺田橋から JR 橋までの両岸）を整備 右岸 整備延長 L=約 294m コンクリート平板舗装 A=718m ² 、防護柵 L=276m、ベンチ N=7 基 左岸 整備延長 L=約 308m コンクリート平板舗装 A=631m ² 、防護柵 L=289m、ベンチ N=6 基



事業の実績に関する評価

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

災害公営住宅建設地から約 200m の距離にあり、散歩コースや憩いの場として災害公営住宅入居者を含む多くの方に利用されている。

また、桜並木が続き全国疏水百選（農林水産省）に選定されている両総用水第 1 導水路は、香取市における桜の名所の一つであり、災害公営住宅入居者を含む地元団体が「さくらまつり」を開催するなど、コミュニティの形成にも寄与していることから、整備した効果は高い。

② コストに関する調査・分析・評価

災害公営住宅建設地からの動線を考慮するとともに、必要な区間を精査し、国道 356 号寺田橋から JR 橋までの区間を設定し、最小限の整備に努めたことから、事業費は適切であった。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

災害公営住宅の整備計画とあわせ、地元への説明会を開催し、住民の理解を得るとともに、用地測量及び設計を想定した期間内に完了させた。

また、地権者（管理者）である農林水産省、水資源機構、千葉県、両総土地改良区と協議を重ね、災害公営住宅の入居に合わせ工事を完了できたことから、事業手法は適切であった。

事業担当部局

建設水道部都市整備課 電話番号：0478-50-1232